2023年 山形国際ドキュメンタリー映画祭 | 2024年 座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル | 2024年 台湾国際ドキュメンタリー映画祭 | 2024年 ニッポン・コネクション | 2024年 マカオ国際ドキュメンタリー映画祭

# どうすれば よかったか？

## 言いたくない 家族のこと

面倒見がよく優秀な姉に統合失調症の症状が現れた
父と母は玄関に南京錠をかけ、彼女を閉じ込めた

監督・撮影・編集：藤野知明　制作・撮影・編集：淺野由美子　編集協力：秦岳志　整音：川上拓也　製作：動画工房ぞうしま　配給：東風　2024年｜101分｜日本｜DCP｜ドキュメンタリー　©2024動画工房ぞうしま　dosureba.com

姉の病気を認めないことで成立する「家族」のあり方。
おそらく多くの機能不全家族にも通じる矛盾であり、
その矛盾をはっきりとカメラに残したドキュメンタリーである。

**インベカヲリ★**——写真家、ノンフィクション作家

映像はふるえている。
目もくらむ年月を重ねたままならない日々と家族が、
そこにうつっている。求めることができなかった助けの声が、
問いのかたちとなって社会に手渡された。
映像を観たいま「あなたたちはこうすればよかった」ではなく
「わたしたちはどうすればよかったか」という思いが離れない。

**永井玲衣**——哲学者

カメラを持った男——弟であり息子でもある彼は、
「撮る」ことでいかに自らの家族と、
そして世界と切り結ぼうとしたのか。
記録されることがなかったかもしれない場所で、
「ともちゃん」と呼ばれる男から、
人間探究の目が立ち上がってくる。
我々はこの目の発動を映画と名付けているのではないか。
カメラの前で老いた父親と真っ直ぐ向き合う藤野知明監督の姿が、
この映画の決定的な余韻として残っている。

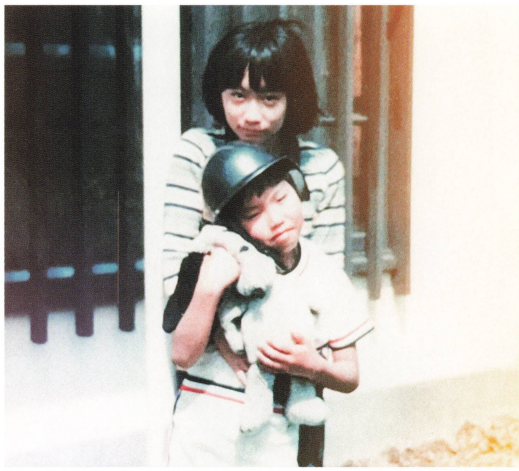
**森直人**——映画評論家

# 家族という他者との20年にわたる対話の記録

面倒見がよく、絵がうまくて優秀な8歳ちがいの姉。両親の影響から医師を志し、医学部に進学した彼女がある日突然、事実とは思えないことを叫び出した。統合失調症が疑われたが、医師で研究者でもある父と母はそれを認めず、精神科の受診から姉を遠ざけた。その判断に疑問を感じた弟の藤野知明（監督）は、両親に説得を試みるも解決には至らず、わだかまりを抱えながら実家を離れた。

このままでは何も残らない——姉が発症したと思われる日から18年後、映像制作を学んだ藤野は帰省ごとに家族の姿を記録しはじめる。一家そろっての外出や食卓の風景にカメラを向けながら両親の話に耳を傾け、姉に声をかけつづけるが、状況はますます悪化。両親は玄関に鎖と南京錠をかけて姉を閉じ込めるようになり……。

20年にわたってカメラを通して家族との対話を重ね、社会から隔たれた家の中と姉の姿を記録した本作。“どうすればよかったか？”正解のない問いはスクリーンを越え、私たちの奥底に容赦なく響きつづける。



## 分かりあえなさとともに生きる、すべての人へ向けた破格のドキュメンタリー。

dosureba.com　𝕏 dosureba_film

**12.7**｜土｜よりロードショー
全国共通特別鑑賞券 ¥1,500（税込）

ポレポレ東中野
03 3371 0088 pole2.co.jp
JR東中野駅西口改札北側出口より徒歩1分
都営大江戸線A1出口より徒歩1分

有楽町イトシア イトシアプラザ4F
テアトルシネマグループ
ヒューマントラストシネマ有楽町
03（6259）8608 ttcg.jp